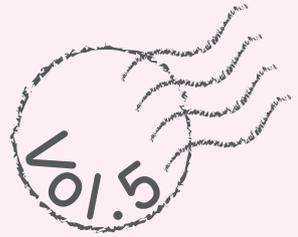


常陸大宮市第1号の青年  
海外協力隊員として活動  
中の石塚幹子さんから  
便りが届きました

# コスタリカ から

# Hola!

オラ



コスタリカ共和国の言語はスペイン語。Holaは「こんにちは」の意味です。



コスタリカ共和国



▲フェリパさん



▲フェリパさんの畑。パイナップル、落花生、かぼちゃなど



▲このかまどで、お菓子やパンを焼きます



▲採れたての有機ミニトマト



▲週1回、町の中心地で行われるフェリア（市場のこと）



▲トウモロコシとチーズで作る「ロスキージャ」というドーナツのような菓子。有機トウモロコシ、手作りチーズを使用

常陸大宮の皆さんこんにちは。そちらは桜の花が間もなく咲く頃でしょうか。コスタリカは、南国フルーツの時期が到来し、町の至る所にマンゴー、パイナップル、グアバ等が実っています。

今回は、家庭で有機栽培をしている女性、フェリパさん（現在50歳）についてご紹介したいと思います。

彼女には、旦那さんと5人の子ども、6人の孫がいます。子どもは既に成人し、家を離れて暮らしています。コスタリカでは、結婚をした子どもは全員、家を出るのが一般的だそうです。

彼女の一日の始まりは早く、毎朝5時に起床し、コーヒーと簡単なパンや菓子を飲食後、鳥、豚や牛の世話を行います。動物たちは朝早くからにぎやかに鳴き始めます。（私も来た当初はそのにぎやかさに驚いたものでした）9時頃に朝食（米と豆の料理）を取り、掃除や洗濯、畑作業、ボカシ肥作り、チーズ・ヨーグルト・トウモロコシからできたお菓子やパン作りなどで一日を過ごします。

旦那さんは、今の時期は豆畑で働いています。日中は焼け付くような暑さで、畑仕事は本当に大変です。お昼や夕飯も米と豆が基本ですが、庭で採れた野菜やスープ、手作りチーズなどを食べます。夕方には、息苦しい程の暑さも徐々におさまります。だいたい夜の8時から9時に寝ます。その頃にはもう満天の星空が村を覆っていて、涼しげな虫の鳴き声が聞こえてきます。

フェリパさんは、子どもの頃から植物を育てるのが好きでした。虫や鳥に作物を食い荒らされる、土が悪く元気が育たないことなどを経験し、試行錯誤を繰り返しながら栽培してきました。常に植物の状態を観察し、どうしてそうなるのか、答えを自分で見つけてきました。彼女は、「栽培が好きなら庭が小さくても何でも育てられる」、「農業で健康を害した人がいて、その怖さを知っているから有機栽培をする」と言います。5年程前から有機栽培グループに参加し、週に1回、町の中心地へ出向いて、家で採れた有機野菜や手作りのお菓子などをフェリアで販売しています。彼女の目標は、今のフェリアをもっと活性化させて有機野菜を広めること。彼女の栽培する野菜は、質も良く価格も良心的。ですが、町の人は農業で育った物を食べてきて今まで何ともないので、安い方がいいと考える人が多く、彼女の野菜はあまり売れません。「それはその人の考えだから仕方ない」と少し寂しげに彼女は言っていました。

この町で、彼女のように多種多様な作物を栽培している人はあまりいません。また、私自身とても勉強になります。また、学校菜園を強力にサポートしてくれる頼れる存在でもあります。今後は彼女の家に学校の生徒を呼んで、ボカシ肥作りを実施する計画です。

今年もコスタリカで頑張りますので皆さんどうぞよろしくお願ひします。